

# 富山経協



紅葉したニシキギ（解説・17ページ）

## CONTENTS

- 2 東部地区会員懇談会（報告）
- 3 講演会（要旨）  
「仕事」と「大切な何か」を両立できる働き方が  
当たり前の企業文化を目指して
- 4 Top Interview  
KMC 般若克彦社長
- 6 人事労務管理INFORMATION  
長時間労働に対する監督指導について
- 7 労働指標
- 8 事業活動報告
- 9 委員会活動
- 12 講座・セミナー
- 12 参加者NOTES
- 16 会員の動き
- 16 特定（産業別）最低賃金の改正
- 18 おしらせ・事業予定

# 東部地区会員懇談会

11月11日(金)、ホテルグランミラージュにおいて76名(会場40名、オンライン36名)が参加して、東部地区会員懇談会を開催した。

第1部の講演会では、AIG損害保険株式会社 執行役員 福富一成氏を講師に招き、「『仕事』と『大切な何か』を両立できる働き方が当たり前の企業文化を目指して」と題して講演いただいた。(講演要旨は3頁に掲載)



浅野副会長の開会挨拶



新田知事より祝辞



山下会長が乾杯挨拶



中西理事の中締め

第2部の懇親会では、東部地区担当の浅野副会長が、「為替相場の変動、サプライチェーンの混乱、原材料の高騰など様々な経営課題がある中、『働き方改革のさらなる深化』『エンゲージメント向上』『顧客の品質第一』『すべての社員の能力向上を目的とする研修セミナーの実施』など、富山県経営者協会としての活動をしっかりと行い、コロナ禍を乗り越え皆さまとともに発展していきたい」と開会挨拶をした。

来賓を代表して新田知事より「政府が策定する総合経済対策の重点項目の一つである、賃上げによる人の流動化や人への投資が活発になるよう、県としてもできる限り支援していきたい」と挨拶があった。

続いて、山下会長が「本日お集まりの皆さまのご健勝、それぞれ担っている仕事がしっかりと成果を上げて、富山県そして日本が発展することを祈念したい」と述べて、乾杯の発声をした。

和やかな歓談がつづく中、中締めとして中西理事から「コロナ問題や経済状況は良くなる兆しは見えないが、暗い気持ちを吹き飛ばしながら1年の締めくくりをして頂きたい」と挨拶して、万歳三唱を行い、散会した。

## 「仕事」と「大切な何か」を両立できる働き方が 当たり前前の企業文化を目指して

講師 AIG損害保険株式会社  
執行役員 人事部門担当 福富 一成 氏



日本は少子高齢化で人口減少に向かい、我々の会社でも平均年齢が高くなり、介護や、病気を抱えながら仕事をする人も増えてきた。働き方の変化に会社も対応していけないと、パフォーマンスを出せる社員を採用できなくなるのではないかという危機感を人事の責任者として持ち、フレキシブルに働ける制度を色々作ってきた。

しかし、周りの人を気にして制度を利用しづらい状況が見え、制度を当たり前前に使えるカルチャーを会社として作らないといけない、マインドセットを変えるために打ち出したのが「仕事」と「大切な何か」を両立できる働き方が当たり前前の企業文化を目指してだ。カルチャーとは、日頃の仕事の中で根づいていくものと思ひ、色々なアプローチをしてきた。

各種セミナーを開催し、介護をしながら仕事を続けるコツや、管理職の意識改革をはじめ、たくさん開いてきた。また、転動のない制度（Work@Homebase）や、在宅勤務ほか、フレキシブルに働けるというキーワードで既存の制度をブラッシュアップしていった。

### I ベスプレのビジョン

「ベスプレ（The Best Place to Work）」を掲げて、一番良い環境と思ってもらえる職場づくりを目指している。ベスプレが提供する価値は、①A I Gで働くことに「Pride」を持てる、②制度や環境を当たり前前に自分で生かして使っていく「Culture」、③機会は自分でつかんでいく「Opportunity」、

④心も体も健康「Active Care」、⑤制度や処遇などの「Rewords」、⑥「Office／I T」環境の充実、⑦「Life」自分の人生を自分でつくっていく、⑧「People」仕事や人生は1人ではないので、チームでお互いさまを大切にしていこうと、この8つのキーワードでやっている。

取り組みとしてはありとあらゆることをやっており、「Beyond borders」といって、コラボレーションやイノベーションを促すために、部署に関係なく座ることができるフリーアドレスのスペースを作ることもやり始めている。

### II Work@Homebase

望まない転動のない制度「Work@Homebase」は、①転居転動がない、②単身赴任がない、③社命での異動がない会社を目指している。

「ベスプレ」で、自分の人生を作っていくことなどを掲げているので、働く場所を重視してホームベースでキャリアを積んでいく働き方も当たり前前に受け入れようと考えた。全国転勤する人と、転勤をしたくない人で分けるのがコンセプトで、基本的には全員が勤務地を選べ、自分が希望していないところで働く人が少数派と考える。

社員に希望を聞き、①働き方は、全国転勤していいか、希望エリアで働きたいかの2択。②希望勤務エリアは全国11エリアから選択してもらおう。最後に③希望勤務都道府県を選んでもらった。

勤務地を選んだNon-Mobile社員

と、全国転勤をするMobile社員との差は、「住宅に関するベネフィット」が違う。ベネフィットが高いのは、Mobile社員で希望とは違う勤務地になったとき。社宅費用の約95%を会社が負担し、月15万円の手当を新設して支給している。これは、ほとんどの社員が希望勤務地となれば、それまでたくさんあった社宅の貸与がなくなり、そのコストを使って少数派となる希望勤務地以外で働く人へ支払うベネフィットを作った。

Mobile社員とNon-Mobile社員は、ライフステージに応じて変更が可能で、介護が必要になったりした時に、異動ができるようになってきている。

今、Non-Mobile社員は65%になっており、そのうち100%が希望勤務地で働いている。

### （補足）

1つのエリア内でキャリアを築くとなると、ある程度部門間異動が必要で、また、ある時はプライベートな事情で課長は務まらないから一担当者に落としてほしいということも選択肢として持てるように、部門をまたいで階層を上下しても当たり前前と考え、キャリア形成してほしいと言っている。

1 on 1 meetingで、上司と部下の対話をきちんとすることを重視している中で、「The Best Place to Work」のカルチャーを広げることもやっている。今一番時間をかけているのは、管理職向けの研修で、カルチャーを変えることに注力している。

## 変化に立ち向かう 即応集団

### 新たな事業基軸の創出へ

株式会社KMC  
代表取締役社長

般若克彦氏



今年9月に旭東機械製作所から社名変更し、本社工場も新築移転されました。沿革をお伺いします。

1981年に現会長である父、般若隆が(株)旭東機械製作所を創業し、汎用旋盤を主とした工作機械の設計製造を始めました。

しかし、当時はコンピューター制御のNC旋盤の普及が急速に進んだ時期で、機械を作る側から、

機械を使って金属を加工する仕事への転換を図り、86年からアルミ建材の押出用金型や加工用補助工具の製造を始めました。当社独自の溶断加工機も導入し、100mmを超える厚い難削合金の加工も短時間で出来るようになっていきます。

一方で、2000年頃から日本の住宅着工数が伸び悩み始め、建材以外の柱も持ちたいと自動車分野に

進出し、トランスミッションの鍛造部品用の金型製造にも乗り出しました。

現在の売上高の構成は、建材向けが約4割、自動車向けが約4割と半々で、その他の新しい分野の開拓にも取り組んでいます。

#### －社名を刷新し本社移転－

新社名KMCに込めた思いとは。

「旭東マルチカutting・カンパニー」の意味で、切削のトップランナーになりたいとの思いを込めました。長年、金型を作ってきて、金属を削る技術の強みを生かし、今後さらに部品加工などへも幅を広げようと、何でも削れるマルチカuttingを社名に込めました。

創業の地から高岡市ICパークへ本社工場を新築移転されました。

今後の事業拡大を考えた時、元の工場が手狭になっており、会長とも意見が一致して新築移転を決めました。最新鋭の大型マシニングセンタなども導入し、生産能力は1.5倍になりました。

何より、社員が安全に安心して働ける環境整備に主眼を置きました。ここで働きたい、また、我が子を入社させたいと思う工場を目指して新築しました。

新たに乗り出された事業分野について教えてください。

金属加工の工作機械には大きく分けてNC旋盤とマシニングセンタがあります。現在は自動車向けに用いている旋盤加工で、新たな事業の柱を育てようと、建設機械向けの金型加工を始めました。この仕事は比較的軽い材料を扱うので、若い人や女性でも作業がしやすいというねらいもあります。

また、新型コロナの混乱期には

自動車向けの受注が止まり、建材向けのマシニングセンタだけが動く状態を経験し、マシニングセンタのできる分野も増やそうと、半導体製造装置向けの部品加工も始めました。新しい大型機械を導入したところ、操作も簡単になっており、若手への技能伝承もスムーズに行えるメリットもありました。

## — 体制整備と工場のDX化 — 2代目として会社を継承され、5年 が経ちました。

2016年に入社した際、社員のコミュニケーションが少ないと感じ、さらに、当時社長だった父は、創業以来、経営の全てを強い思いで引っ張ってきたので、社員はその指示に従うという感じでした。社員がもっと自発的になれば良いなと思いました。

私は技術的なことは分かりませんでした。前職が公認会計士で、顧問先のヒアリングなどを行ってきたので、若い社員を中心にどんなことをやっているのかを教えてください。人に分かりやすく伝える話し方や、報告書、改善提案書の書き方などをアドバイスしてきました。全社員を対象にした年4回の面談も行ってきました。しかし、なかなか経営側の思いが伝わらないと感じ、気がつくとも私も細かいところまで指示を出すよう

になっていました。

コロナ禍となった時に、思い切って幹部社員の若返りを図り、現場スタッフの感覚に近い人を登用し、私の考えも組織として部署ごとに下ろすようにしました。また、工場を建設した際の縁で、大手メーカーOBの方に顧問に入ってもらい、適切なアドバイスをいただいています。組織のあり方や、社員のマインド醸成など、会社の雰囲気も徐々に改善し、これまでできていなかった“当たり前のこと”がちゃんとできるように変わってきたように感じています。

## 会社の事業も体制も大きく変革されていますね。工場のDX化にも取り組んでいらっしゃるそうです。

生産現場にIoTを導入してムダやムラを解消できないかと考えていたところ、富山県アルミ産業協会の仲立ちで3年前から富山県立大学の岩本健嗣准教授と連携し、工作機械の稼働状況をセンサーでモニタリングしています。

これまでは、計画通りに行かなかった時に「忙しかったから」「気をつけます」といった漠然とした答えしか返ってこなかったのですが、1日の稼働状況が数値化して見えるようになると、自らの作業を振り返って検証し、対策を打つことができるようになりました。

今は、機械ごとにスケジュール表を貼り付けて、担当者が前日の稼働データを確認した上で、自分で1日の段取りを決め、予定を書き込むようにしています。若手社員などは、初めてやる仕事が不安に感じたら前もって先輩社員に聞きに行くようになりました。センサーを使った実証実験として始めたのですが、今ではなくてはならないツールになっています。

## 今後の計画を教えてください。

これまでは金型屋でしたが、色々な業種の部品加工にもチャレンジしていきたいと思っています。経営の安定化に加えて、女性オペレーターなど多様な人材が働ける会社になるためにも必要です。

新しい分野になると当然、設計内容や材質の変更も多いと思いますが、変化の大きいところで鍛えられて、技術も風土も世界基準についていく会社になりたいと思っています。「変化を、進化に。」と掲げて前進していきます。

## 座右の銘を教えてください。

「焦らず、慌てず、諦めず」です。この会社に入った時、専門知識がなく分からない中で、この言葉を唱えて頑張ってきました。この気持ちで常に新しい事に挑戦していきたいと思っています。

## 略 歴

1981(昭和56)年8月生まれ、高岡市出身。2004年慶應義塾大学商学部卒。公認会計士として監査法人勤務を経て、2016年(株)旭東機械製作所(現(株)KMC)に入社、2017年8月から代表取締役社長。



## 会社概要

### 株式会社KMC

創 業：1981(昭和56)年5月

所 在 地：高岡市ICパーク11-2

資 本 金：3,290万円

事業内容：アルミ押出用金型製作、

自動車部品用鍛造金型製作

従業員数：32名(2022年11月現在)

U R L：https://kmc-t.co.jp/

## 長時間労働に対する監督指導について

富山労働局から、2021年度に長時間労働が疑われる事業場に対して実施した監督指導の結果が10月28日に公表されました。

監督指導は、①各種情報から時間外・休日労働時間数が1カ月当たり80時間を超えていると考えられる、②長時間にわたる過重な労働による過労死等に係る労災請求が行われた、などの事業場を対象としています。

### 2021年度（2021年4月～2022年3月）監督指導の実施事業場：473事業場

#### （主な違反内容）

- |  |                |
|--|----------------|
| ① 違法な時間外労働があったもの：                      | 177 事業場（37.4%） |
| うち、月80時間超え：65事業場（36.7%）                |                |
| （100時間超：36事業場 150時間超：4事業場 200時間超：0事業場） |                |
| ② 賃金不払残業があったもの：                        | 23 事業場（4.9%）   |
| ③ 過重労働による健康障害防止措置が未実施のもの：              | 96 事業場（20.3%）  |

#### （主な健康障害防止に関する指導の状況）

- |                                |                |
|--------------------------------|----------------|
| ① 過重労働による健康障害防止措置が不十分なため改善を指導： | 215 事業場（45.5%） |
| ② 労働時間の把握が不適正なため指導したもの：        | 83 事業場（17.5%）  |

長時間労働（長期間の過重業務）による健康障害についての労災認定、いわゆる過労死ラインはこれまで、①発症日の直近1ヵ月で、残業時間が月100時間を超えていること、②発症日前2ヵ月～6ヵ月間の残業時間が月平均80時間を超えていることを基準としてきましたが、2021年9月以降は、時間外労働時間が過労死ラインに達していなくても右記の基準が追加され、労働時間以外の負荷要因があり関連性が強いと評価されたときは、法令で定められた上限規制（80時間）に達していなくても労災認定がすでに行われています。具体的な負荷要因として「勤務時間の不規則性」「休日のない連続勤務」「勤務間のインターバルが短い勤務」が追加され、特に勤務間インターバルが11時間以上確保されているかが重要なポイントとなっています。また、著しい疲労蓄積をもたらす過重な業務、「身体的負荷を伴う業務」に関しても労働時間以外の負荷要因として追加されていますので、労働時間だけではなく労働環境の総合的な改善に努める必要があります。

#### 労災認定基準の追加ポイント

- 1) 長期間の過重業務の評価にあたり、労働時間と労働時間以外の負荷要因を総合評価して労災認定することを明確化
- 2) 長期間の過重業務、短期間の過重業務の労働時間以外の負荷要因の見直し
- 3) 業務と発症との関連性が強いと判断できる場合の明確化
- 4) 脳・心臓疾患の対象疾病に「重篤な心不全」を追加

（2021年9月）

## 「人事・労務相談室」のご案内 <無料>

会員の皆さまを対象とした人事・労務に関するご相談を、無料でお受けいたします。

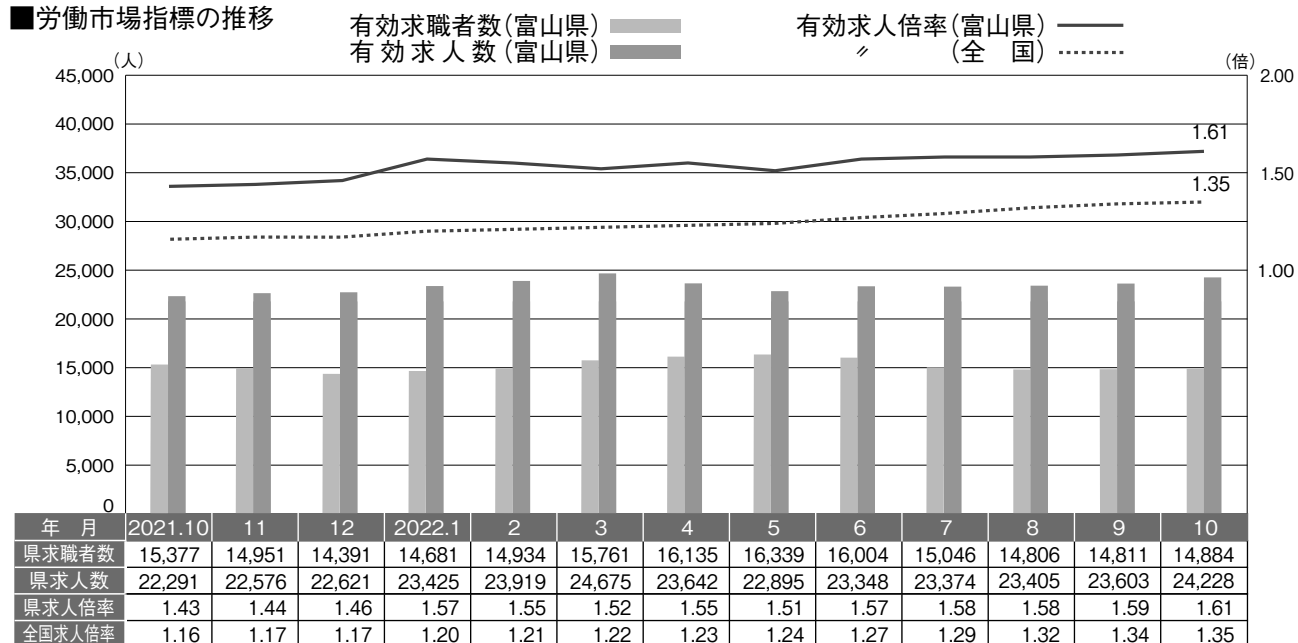
- ・相談日：原則毎月第2、第3木曜日  
<2023年度1月～2月の開設予定日> 2023年1月12日、19日、2月9日、16日（木）
- ・時 間：①13:30～14:10 ②14:20～15:00 ③15:10～15:50
- ・担 当：社会保険労務士 松浦 辰夫 氏（松浦社会保険労務士事務所）

※当協会ホームページより「相談申込書」をダウンロード後、相談内容を記載頂き、相談日2日前までに [roumu-soudan@toyama-keikyo.jp](mailto:roumu-soudan@toyama-keikyo.jp) へ送付ください。【予約制】

※相談日を定めておりますが、緊急の場合は当協会までご連絡ください。TEL (076) 441-9588

# 労働指標

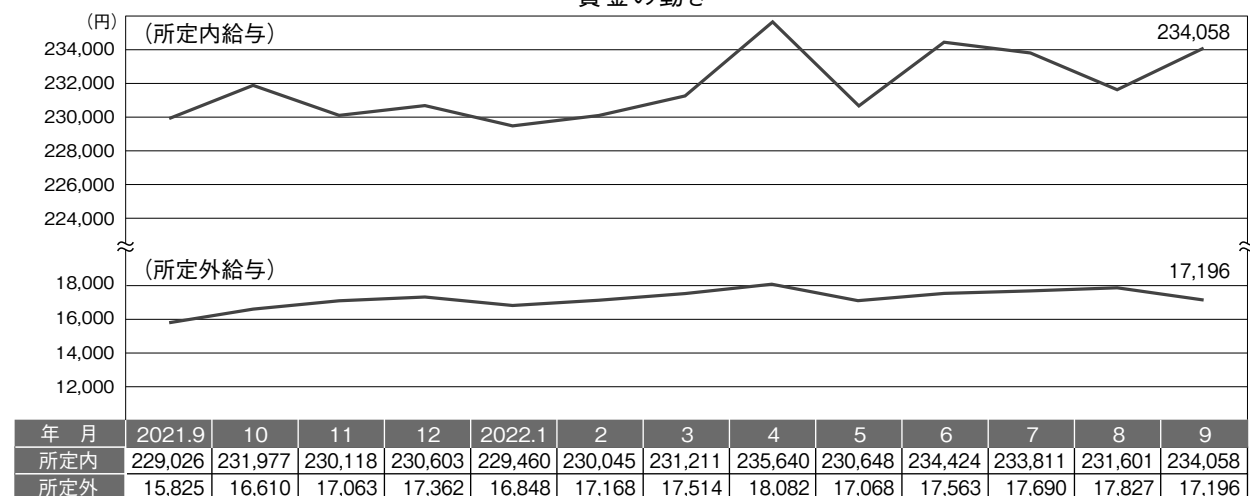
## 労働市場指標の推移



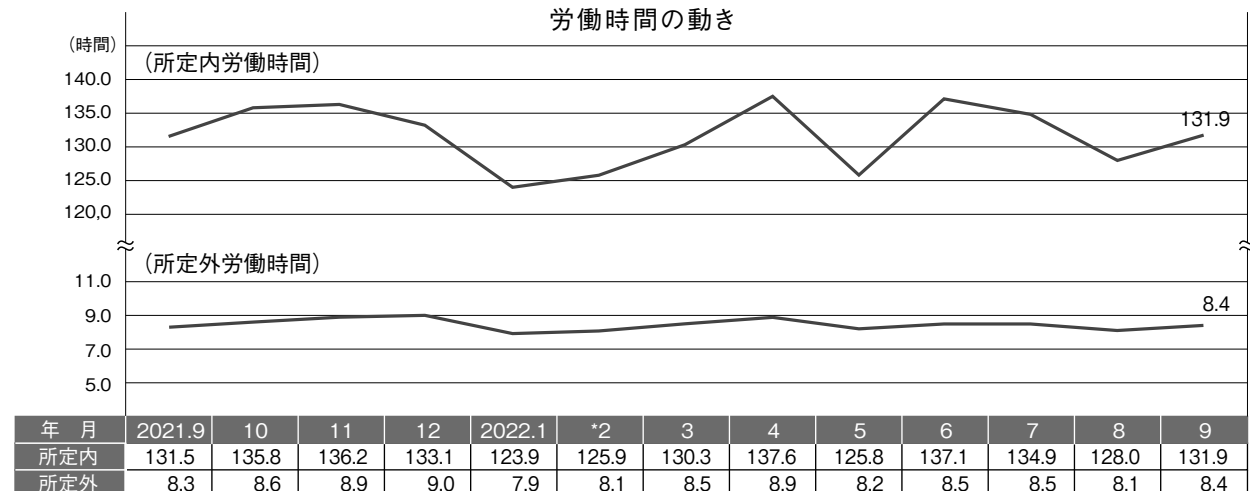
出典：富山労働局「労働市場月報」[https://jsite.mhlw.go.jp/toyama-roudoukyoku/jirei\\_toukei/shokugyou\\_shoukai/toukei.html](https://jsite.mhlw.go.jp/toyama-roudoukyoku/jirei_toukei/shokugyou_shoukai/toukei.html)

## 賃金・労働時間の動き(調査産業計、事業所規模：5人以上)

### 賃金の動き



### 労働時間の動き



出典：とやま統計ワールド「毎月勤労統計調査 地方調査月報」<https://www.pref.toyama.jp/sections/1015/index2.html>

# 事業活動報告

2022年10月12日～12月8日

(OL) = オンライン併用開催

|                                 | 事業名                           | 委員会名      | 開催日                                       | 場所                               | 参加人数 |
|---------------------------------|-------------------------------|-----------|---|----------------------------------|------|
| 会<br>議                          | 教育委員会「幹事会」                    | 教 育       | 11月 4日(金)                                 | タワー 111ビル 2階研修室                  | 6名   |
|                                 | 経営企画・IT委員会「セミナー・定例委員会」        | 経営企画・IT   | 11月 7日(月)                                 | 富山経協・研修室                         | 11名  |
|                                 | 東部地区会員懇談会                     |           | 11月11日(金)                                 | ホテルグランミラージュ(OL)                  | 76名  |
|                                 | 品質管理委員会「幹事会」                  | 品質管理      | 11月17日(木)                                 | タワー 111ビル 2階研修室                  | 8名   |
|                                 | 環境委員会「幹事会」                    | 環 境       | 11月21日(月)                                 | 富山経協・研修室                         | 10名  |
|                                 | 人事・労務政策委員会「幹事会」               | 人事・労務政策   | 11月22日(火)                                 | タワー 111ビル 2階会議室1                 | 6名   |
|                                 | 環境委員会「定例委員会・講演会・事例発表会」        | 環 境       | 12月 2日(金)                                 | ホテルグランテラス富山                      | 87名  |
|                                 | 教育委員会「定例委員会」                  | 教 育       | 12月 5日(月)                                 | 富山経協・研修室                         | 27名  |
|                                 | 人事・労務政策委員会「講演会・定例委員会」         | 人事・労務政策   | 12月 7日(水)                                 | 富山経協・研修室(OL)                     | 33名  |
| 会<br>員<br>交<br>流<br>見<br>学<br>会 | 会員交流ボウリング大会                   | 総務交流      | 11月16日(水)                                 | 富山地铁ゴールデンボウル                     | 120名 |
|                                 | 総務交流委員会「企業見学会」                | 総務交流      | 11月28日(月)                                 | 北陸電気工事(株)技術開発センター                | 6名   |
| 講<br>座<br>・<br>セ<br>ミ<br>ナ<br>ー | 労務管理実務講座                      | 人事・労務政策   | 10月12日・19日・26日(水)<br>11月 2日(水)            | 富山経協・研修室(OL)                     | 17名  |
|                                 | 実践しながら学ぶ統計的手法活用講座             | 品質管理      | 10月13日(木)・27日(木)<br>11月10日(木)・24日(木)      | 富山経協・研修室                         | 25名  |
|                                 | ヒューマンエラー未然防止セミナー              | 品質管理      | 10月14日(金)                                 | 富山経協・研修室                         | 27名  |
|                                 | 若手社員実践コース                     | 教 育       | 10月18日(火)                                 | 富山経協・研修室                         | 28名  |
|                                 | 現場の技術・技能伝承支援研修                | 品質管理      | 10月24日(月)・25日(火)<br>11月8日(火)・9日(水)・22日(火) | インテック大山研修センター<br>現場実習企業、富山経協・研修室 | 16名  |
|                                 | ものづくり女性社員のための改善力向上セミナー        | 品質管理      | 10月25日(火)                                 | 富山経協・研修室                         | 24名  |
|                                 | 管理職基礎コース                      | 教 育       | 10月28日(金)                                 | タワー 111ビル 4階ギャラリー                | 28名  |
|                                 | 次世代経営者育成セミナー<br>～ひと・しごと未来創生塾～ | 経営企画・IT   | 10月28日(金)                                 | 富山経協・研修室                         | 4名   |
|                                 | ISO9001内部監査員養成講座              | 品質管理      | 11月8日(火)・9日(水)                            | 富山経協・研修室                         | 29名  |
|                                 | 管理職中級ステップアップコース               | 教 育       | 11月15日(火)・16日(水)                          | 富山経協・研修室                         | 13名  |
|                                 | 労働法実務講座<第3回>                  | 人事・労務政策   | 11月17日(木)                                 | 富山経協・研修室(OL)                     | 34名  |
|                                 | 変化点管理の考え方・進め方セミナー             | 品質管理      | 11月18日(金)                                 | 富山経協・研修室(OL)                     | 18名  |
|                                 | タイムマネジメント研修                   | 教 育       | 11月25日(金)                                 | 富山経協・研修室                         | 24名  |
| 5Sと目で見える管理活動実践セミナー              | 品質管理                          | 12月 6日(火) | 富山経協・研修室(OL)                              | 20名                              |      |



### 総務交流委員会

#### ■ 会員交流ボウリング大会

11月16日(水)、富山地铁ゴールデンボウルで開催し、30チーム120名の参加があった。

参加者最年長の(株)ホクタテ北川康己氏による始球式の後、一斉に競技が開始され、各チーム和気あいあいとした雰囲気の中で熱戦が繰り広げられた。

新型コロナウイルス感染予防のため、レーン交代なしで、ゲームは1チーム4人の2ゲーム合計スコアで競う団体の部と、各人2ゲームの合計スコアで競う個人の部で行われ、女性と男女問わず65歳以上には1ゲーム20ピンのハンディを適用した。



武内プレス工業チーム

主な成績は下記の通り。団体の部は武内プレス工業(株)チームが3年連続で優勝した。個人の部は名畑孝昭氏が昨年に引き続き優勝した。表彰式では、自社参加チーム

の応援に駆けつけた総務交流委員会副委員長の北日本放送(株)常務取締役管理本部長 島谷浩司氏に各賞のプレゼンターを務めていただいた。

#### <上位成績>

|     | 〈団体の部〉     | 〈個人の部〉             |
|-----|------------|--------------------|
| 優勝  | 武内プレス工業(株) | 遠藤 雅博 (武内プレス工業)    |
| 準優勝 | (社福)わかば福祉会 | 栗原 一男 (富山電気ビルディング) |
| 3位  | (株)リッチェル   | 筒口 哲也 (武内プレス工業)    |

#### ■ 企業見学会

11月28日(月)、竹中副委員長はじめ6名が参加して開催した。

見学先の北陸電気工事(株)技術開発センターは、今年3月24日に竣工し4月にオープンした施設。最初に技能五輪練習室で、今月幕張メッセで開催された技能五輪大会で金メダル、銀メダル、敢闘賞を獲得した技能選手の実演を見学した後、電気の見える化のためのスマート警報器・スマート検電器の

紹介と、透視写真機能とARメジャー機能を装備したまるとARメジャーアプリやローカル5Gの説明を聞き、最後にボルダリング設備の実演を見学した。同社が2020年に取得した南砺市にある桜ヶ池クライミングセンターは選手の育成で地域の活性化や、クライマーを送電線工事の社員に勧誘することで、同社の人材確保につながっているとのこと。

今回の見学で、同社がDXの技



術を使い、業務の効率化や働き方改革を推進し、技術開発センターが優れた人材を育て、技術力を発信する場所を目指しているということを実感した。

### 経営企画・IT委員会

#### ■ 定例委員会

11月7日(月)、萩中委員長はじめ11名が出席して富山経協・研修室で開催した。

第一部は、富山国際大学現代社会学部教授の新森昭宏氏を講師に招き「学校における情報教育の変貌～その背景・意義・影響について」と題してセミナーを開催した。

第二部の定例委員会は、萩中委員長の挨拶、委員交代の紹介後、事務局より2022年度事業中間状況について説明した。次に経営課題調査(第2回目)のテーマ設定、2023年度委員会事業計画(案)、2023年度協会活動テーマについて審議した。

次回の委員会は2月24日(金)に



開催する。

### 人事・労務政策委員会

#### ■ 幹事会

11月22日（火）、八十島委員長はじめ幹事6名が出席し、タワー111ビル2階会議室1で開催した。

八十島委員長の挨拶後、事務局より2022年度事業の活動報告を行い、今後の事業予定として12月定例委員会では富山県協力、厚生労働省共催の男性育休促進のための講演会を実施すること、2023年2月定例委員会には「人材確保に向

けた情報交換」を実施することを報告した。

2023年度事業計画（案）として、最新の人事労務制度の潮流を習得するため、人事労務管理セミナーについては、①自社賃金水準検証と人件費分析セミナー、②自社の人事制度・運用分析セミナー、2024年2月定例委員会においては今年度に引き続き、人手不足・早期離職を防ぐ趣旨から情報交換の



ため講演会等を実施することなどを、12月定例委員会に諮ることを決定した。

#### ■ 定例委員会

12月7日（水）、定例委員会に合わせ、富山県協力、厚生労働省共催で講演会を富山経協・研修室とオンライン Live にて開催した。

第1部の講演会は、八十島委員長はじめ人事・労務政策委員（研修室18名）と一般会員（オンライン15名）の33名が参加。講師には社会保険労務士 岡本尚美氏を会場

に招き、「「イクボス」を意識してみませんか？～男性育休取得促進のカギは管理職！～」と題し、講演いただいた。男性の育児休暇促進を図るための最新情報の共有を図り出席者の知識を深めた。

第2部の定例委員会は委員18名が出席し、八十島委員長挨拶の後、事務局より委員交代の紹介、2022年度事業活動と今後の予定について



て報告した。引き続き2023年度事業計画（案）について説明し、承認を得た。

### 教育委員会

#### ■ 幹事会

11月4日（金）、品川委員長はじめ幹事6名が出席して、タワー111ビル2階研修室で開催した。

品川委員長挨拶の後、2022年度年間事業報告及び研究部会の活動テーマ「各社の人材育成の課題と

取り組みの共有と自社人材育成の改善提言」の報告を行った。

次に、2023年度の活動内容について審議した。定例委員会は6月・8月・12月・2月の4回開催、うち6月と2月は企業見学会を併催することとし、事務局案の見学候

補先について協議した。さらに8月と12月の併催事業についても事務局案をもとに協議した。次年度の研究部会については、現研究部会員の意見をもとに2月の定例委員会で諮ることが承認された。

#### ■ 定例委員会

12月5日（月）、富山経協・研修室にて定例委員会に合わせ勉強会を開催した。

第一部では、品川委員長はじめ26名が出席して、（公財）日本生産性本部 主任経営コンサルタントの樋口伸亨氏を講師に招き、勉強会「エンゲージメント向上による強い組織づくり」を開催した。

第二部では、品川委員長はじめ

27名が参加して、定例委員会を開催した。

品川委員長の挨拶後、事務局より事業実施報告として定例委員会の活動内容及び講座・セミナーの受講状況について説明した。研究部会活動「各社の人材育成の課題・取り組みの共有と自社人材育成の改善提言」については、番匠部長より報告があった。次に2023年度の定例委員会については、委員



会活動に関するアンケート結果を参考にした勉強会、見学会の活動をすることや、講座・セミナーなどを審議の上、承認された。

## 品質管理委員会

### ■ 幹事会

11月17日(木)、谷川委員長はじめ幹事8名が出席してタワー111ビル2階研修室で開催した。

谷川委員長の挨拶の後、2022年度事業活動報告を行った後、2023年度の事業計画(案)について審議した。委員会活動については、幹事会を4月と11月、定例委員会は7月に県内企業見学会、9月と12月を事例発表会とグループディスカッション、2月を勉強会で計画。

県外企業見学会については1泊2日で10月に計画。会報については、2月の発行に向けて編集委員会を数回計画することとしたが、見学会、勉強会などは幹事会で検討することになった。

講座・セミナーについては、現行の14講座の開催日程については、前年の計画を元に開催するが、「なぜなぜ分析活用セミナー」は、初めてなぜなぜ分析を学ぶ若手社員向けと、なぜなぜ分析がうまく



いかず悩んでいる監督者・リーダー向けの2コースを計画することについて、12月の定例委員会で諮ることで承認された。

## 環境委員会

### ■ 幹事会

11月21日(月)、谷内副委員長はじめ幹事10名が出席して、富山経協・研修室で開催した。

谷内副委員長挨拶の後、2022年度の事業活動報告と2023年度の事業活動計画(案)について審議した。2022年度の定例委員会は、7月は小田委員長に急遽予定が入り中止、同日の「富山県生活環境文化部との情報交換」(機電共催)は会員へオンライン配信も行い多数の参加があったこと、9月は「カー

ボンニュートラルに向けたエネルギー消費構造改革」の講演会と併催して実施したこと等を報告した。また、12月2日には(一社)富山県機電工業会との共催で「講演会・事例発表会」を開催することを確認した。

続いて2023年度の事業活動計画(案)について審議し、定例委員会は7月・9月・12月の開催とし、7月は「富山県生活環境文化部との情報交換」を併催(機電工業会との共催を継続)、9月「環境・エネ



ルギー問題に関する講演会(勉強会)」の併催、12月「講演会・事例発表会」の併催(機電工業会との共催を継続)することなどについて、12月の定例委員会で諮ることが承認された。

### ■ 定例委員会

12月2日(金)、定例委員会に合わせ「講演会・事例発表会」を、(一社)富山県機電工業会の環境委員会と共催でホテルグランテラス富山で開催した。

第I部の「講演会・事例発表会」では、小田委員長はじめ当協会・機電工業会の委員合わせて31名の出席に加え、オンラインで56名が参加した。講師に(一財)省エネルギーセンター エネルギー使用合理化専門員 濱田豊富氏を招き、「カーボンニュートラルに向けた

省エネの取組み」と題し講演いただいた。事例発表会は、(株)不二越 TQC・TPM推進本部 安全環境推進部 エネルギー課 日尾幸栄氏が「～CO<sub>2</sub>削減活動～省エネと太陽光パネルの導入」をテーマに、富士化学工業(株)生産本部 生産統括部部長 大林直輔氏が「『わやわやSDGs』の取組みについて」をテーマに発表いただいた。

第II部の定例委員会は小田委員長はじめ委員18名が出席し、委員長挨拶の後、2022年度事業活動と今後の予定について報告した。引



き続き、2023年度の事業活動計画(案)について審議し、定例委員会では7月に「富山県生活環境文化部との情報交換」、12月に「講演会・事例発表会」を富山県機電工業会と共催で継続実施することなどを審議の上、承認を得た。

## 階層別研修

## ■管理職基礎コース

10月28日(金)、28名が参加してタワー111ビル4階ギャラリーで開催した。

本コースは、6月28日(火)・29日(水)の2日間研修に続き、第3日目のカリキュラムとなる。

はじめに、6月の研修後、自社の課題について7月～10月の4か月間で実践した内容をグループ内で共有し、受講者5名の好事例を全体発表して共有した。

続いて講師の(公財)日本生産性本部 主任経営コンサルタント樋

口伸亨氏が、前回研修の復習をした上で、①組織力強化のマネジメント、②変革と推進のリーダーシップについて具体的事例を交えながら解説し、グループディスカッションでは活発な議論が交わされた。特に部下育成について心理的安全性が重要であることを確認した上で、目標やモチベーションの高さにも影響を与えることを学んだ。さらに部下指導のあり方や部下とのコミュニケーションを検討した。最後に講師から、これからの時代に対する心構えについ



てまとめがあり、3日間の全日程を終了した。



## 参加者NOTES

## 「管理職基礎コース」を受講して

日本海コンクリート工業株式会社  
パイル営業部 営業グループ課長  
兼 金沢営業所 所長

赤坂 崇



今回、新任課長(経験3年未満)、課長候補者、課長代理を対象とした6月と10月の延べ3日間にわたる講座を受講して、自身の認識不足と管理職というポジションの重要性を学び、再確認しました。

受講というだけに、講師の方の話を聞いたり実演を見たりしながら、知識や技能の受け身的な習得をイメージしての参加でしたが、本講座は単に話を聞いたり、資料に目を通したりするだけではなく、グループディスカッションやその結果の発表、また面接演習を行ったりと実践的な内容を取り入れながら、能動的に仕事をする上で必要となる知識や技能を身につける意味合いが強いものでした。

演習に取り組みながら同時に異業種交流を行い、他社・他職種の方との視点の違いの認識、相互啓発に結びつく点も非常に興味深く、未熟な私からすると「なるほど」「そういう見方もあるのか」「さすが」と感心しきりでした。

リーダーシップの定義の中に「ある個人が他のメンバーや集団活動に影響を与えるプロセスである」とあります。さらに加えるとすると「ビジョンや目標を示す」となります。つまりはリーダー型管理者が求められているということ。そのためには従来のリーダーシップにとらわれず、今回の研修で知った支援型リーダーシップであるサーバント・リーダーシップ

のスタイルにも適応していくのも良いのではないかと、私自身としては思いました。

メンバー各自が自分で考えて動けるチーム創り。そのためには部下の能力を開発し、最大限に発揮させる指導を行わなければなりません。考えて動けるようになった人をまとめ上げて、組織として実績をあげる。まだまだ現場を預かる管理職としての働きが来ていません。特に管理者に求められる能力と姿勢の中でも重要と考えられる「コンセプチュアルスキル(総合判断能力)」は、もっとも身につけることが困難な能力ではありますが、管理職新人から経験を積み、上位管理者となるほど重要になります。そのために相応の決意をもって管理職として努力し、必要とされる人材となるべく職務に取り組みたいです。

## ■若手社員実践コース

10月18日(火)、28名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

本研修は、社会人生活5年程度の若手社員を対象に、自身で論理的に物事を思考することができ、課題を発見できる「考え抜く力」と、「周囲に働きかけ実行する」コミュニケーション力を学ぶことを狙いとしている。

講師の(公財)日本生産性本部風土改革コンサルタント石川歩氏は、論理的思考力および問題解決ステップと技法について、手順とポイントを具体的に解説した。ケーススタディでは学んだポイントと業務改善のケースを結びつけ、課題解決の手順、問題解決のステップ、問題解決プロセス(業務改善)の方法を学んだ。最後に



クリティカルシンキングの演習を行い、異業種の参加者と活発な議論を交わした。

## ■管理職中級

### ステップアップコース

11月15日(火)・16日(水)、13名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

本コースは、中堅課長(管理職経験3年以上)を対象に、価値創出の担い手として戦略の実行力に主眼を置き、特に戦略理解と行動計画への落とし込みのためのスキル獲得を狙いに企画した。

講師の(公財)日本生産性本部主任経営コンサルタント筒井健太氏は、①管理職の役割、②戦略→実行課題→行動計画への落とし込み、③リーダーシップ、④組織と人の活性化、⑤ブレないリーダーについて、ポイントを踏まえ具体的な事例も交えて解説した。①～④ではグループに分かれて活発なワークや演習を行い、最後の⑤では、ビジネスの原理原則を正しく



理解し、リーダーのブレないベースをつくることについて学んだ。

## 共 通

## ■ヒューマンエラー未然防止

### セミナー

10月14日(金)、27名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

講師の中央大学理工学部ビジネスデータサイエンス学科教授の中條武志氏は、技術面におけるプロセスの改善が進むにつれて、ヒューマンエラーによる品質トラブルや事故の発生が大きな問

題となっているとした上で、①ヒューマンエラーを引き起こす人の特性、②ヒューマンエラー防止の原理と方法、③作業に潜在するヒューマンエラーの危険の洗い出し方、④エラープルーフ化の原理、⑤対策案を評価・選定する方法について講義で学んだ。午後からグループ演習を行い、ヒューマンエラー未然防止活動を自分の職場で



を進めるためのポイントについて、演習・発表を通して学んだ。

## ■ISO9001内部監査員養成講座

11月8日(火)・9日(水)、29名が参加して富山経協・研修室で開催した。

講師の(株)テックス ISO コンサルタント青山俊一氏は、内部監査は不適合の「修正処置」に留まらず「改善ツール」であることを再認識する必要があるとした上で、約1

日半のカリキュラムで、ISO9001規格のポイント、要求事項の解説、ISO9001監査プログラムの概要などについて講義した。

2日目の午後から内部監査の実技演習を行い、監査所見の作成を通じて自職場で内部監査を行う上でのポイントを学んだ。



### ■タイムマネジメント研修

11月25日(金)、24名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

講師の山本伸之(公財)日本生産性本部経営コンサルタントは、非効率な働き方を解消するための取り組み方法や、社員一人一人ができるタイムマネジメントのポイントやヒントとして、次のことについて解説した。①タイムマネジメ

ントが求められる背景と重要性、②タイムマネジメントの実効性を高める4ステップとポイント、③組織のムダを発見する際の5つの着眼点、④部署の仕事を減らす3つの切り口、⑤業務の特徴に応じたタイムマネジメントを考える、⑥タイムマネジメントに取り組む際の注意点、⑦究極のタイムマネジメントとは等について、グルー



プワークを通じて体験的に学び、理解を深めた。

## 労務管理

### ■労務管理実務講座

10月6日(木)から11月2日(水)にかけ5回にわたり富山経協・研修室で開催し、受講17名(会場4名、オンライン13名)が修了した。

第1回では、松浦辰夫社会保険労務士が「企業経営における労務管理」と題して、労務管理に関する法律、就業規則等の整備、コロナ後の多様な働き方への対応等に

ついて解説。第2回、3回では、鳥崎裕美子社会保険労務士が「労災・雇用保険実務にかかる諸問題」、「社会保険にかかる諸問題・企業経営で活用できる助成金」と題して解説。第4回、5回では作井法律事務所の古木達也弁護士が「労務管理上のトラブル防止その1」として採用・懲戒に関し、「その2」ではパートタイム、有期労



働契約、同一労働同一賃金等に関して解説し、業務へのレベルアップを図った。

### ■労働法実務講座(第3回)

11月17日(木)、「懲戒処分をめぐる諸問題と使用者の留意点」をテーマに、34名(会場10名、オンライン24名)が参加して、富山経協・研修室で開催した。

講師には第一協同法律事務所の伊藤昌毅弁護士が、各企業においてはコンプライアンスの徹底が重要な課題となっているが、不祥事

の発生はなかなか後を絶たない状況を踏まえ、①懲戒処分の基礎知識、②不祥事の発生、発覚から懲戒処分に至るまでの基本的な流れ、③懲戒処分の際して使用者が対応に迷いがちな実務的問題と留意点、講師の私見等について、講師の経験や具体的な裁判例を交えて分かりやすく解説があった。各企業の担当者が直面して抱えてい



る課題に対する理解を深めた。

## 品質管理

### ■変化点管理の考え方

#### ・進め方セミナー

11月18日(金)、来場参加者7名・オンライン参加者11名、合わせて18名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

講師の(一社)中部産業連盟 主任コンサルタント内山幸二氏は、変化点管理とは5MのMan(人)、Machine(設備)、Material(材料)、

Method(方法)、Measurement(測定)の5つに対し、3H(初めて、久しぶり、変更)の3つの視点で品質の変化を確認し、問題があれば未然に手を打つこととした上で、タートルモデルを活用した職場の作業に対する変化点の要素理解から、変化点管理ボードなどを活用した見える化による異常発見の方法、統計的解析手法を用



いた変化点管理などについて、講義と個人演習を通じて考え方や進め方を学んだ。

## 実践しながら学ぶ

### 統計的手法活用講座

5月26日(木)から富山経協・研修室において開講した「第66回実践しながら学ぶ統計的手法活用講座」は、11月24日(木)に15日間の全日程を終えて閉講した。

この講座は、企業の体質改善を進めるために重要な役割を担うスタッフ・技術者を対象に、問題解決に必要な統計的品質管理(SQC)の手法を学びながら、職場で起きている身近な問題を上司とキャッチボールの上テーマ設定し、グループ別にカウンセリングを受けながら、学んだ統計的管理手法を駆使して問題解決に取り組む。その内容を研究論文にまとめて提出することで、実践的な活用

方法を習得することをねらいとしている。

講座最終日には、先に開催された論文審査会で講師より推薦を受けた優秀論文3件の発表の後、講座全体を通して総合評価上位3名が優秀賞の表彰を受け、受講者25名全員が無事修了証を手にした。

#### 〈優秀論文〉

- ・堀川 廉さん(アイシン軽金属株)
- ・関口 貴彬さん(コーセル株)
- ・水野皓一郎さん(株)リッチェル

#### 〈優秀賞〉

- ・関口 貴彬さん(コーセル株)
- ・高井 脩人さん(コーセル株)
- ・惣田 恭平さん(コーセル株)

#### 〈講師派遣等のご協力企業〉

アイシン軽金属株、コーセル株、サンエツ運輸株、  
株)タカギセイコー、中越合金鋳工株、(株)リッチェル



## 参加者NOTES

### 「実践しながら学ぶ 統計的手法活用講座」を受講して

コーセル株式会社  
新製品開発一部 開発一課

関口 貴彬



私は、直流安定化電源とノイズフィルタを製造販売しているコーセル株で新製品開発一部に所属しており、電源の開発・設計に携わっています。

弊社では全社でQCサークル活動を行っており、年2回のブロック内発表会や、年1回の全社大会を実施するなど、QCサークル活動に力を入れて取り組んでいます。また、入社後すぐに約1年間、統計的手法を社内で学ぶ機会があります。しかしながら、当時は実務経験が不足していたこともあり、統計的手法をどのように活かすことができるかがイメージできていませんでした。

実務やQCサークル活動で統計的手法を使う機会が徐々に増え、非常に便利であることを認識すると同時に、学んでから活用するまでに年数が経ってしまったこともあり、うまく活用できているか不安に感じる場面が幾度ありました。そこで、統計的手法を基本から学び直し、自身のスキルアップおよび業務へ有効に活用していきたい思いから本講座を受講しました。

講座では、品質管理の基本的な考え方から始まり、検定・推定、分散分析法などの専門的な内容まで幅広く学べ、様々な業種の講師の方々から実体験を交えて説明

いただけたため、実務をイメージしながら統計的手法を習得することができました。また、理論だけでなく、多くの演習を行うことで、学んだ知識が身に付いているかどうかを確認しながら進めることができ、理解がより深まりました。

研究論文を作成するにあたっては、グループディスカッション形式のカウンセリングの時間が設けられており、経験豊富な講師の方や社外の受講者との交流を通じて多角的な視点から多くの発見を得る事ができました。また、何気ない会話からも他社のQCサークル活動や品質管理に対する取り組み等を聞くことができ、貴重な体験となりました。

今後はこの講座で学んだことを生かして、製品の品質向上や業務の生産性向上に取り組み、会社に貢献していきたいと思えます。

生産管理

■ものづくり女性社員のための  
改善力向上セミナー

10月25日(火)、ものづくり企業で働く女性社員24名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

講師の(株)日本能率協会コンサルティング T P Mコンサルタント 高林のみ子氏は、改善活動は一過性の改善ではなく体質改善が重要であるとした上で、現場において

も女性社員の活躍がますます求められていることから、女性活躍に必要な環境づくりや現場活性化の「仕掛け」・「仕組み」づくりについて、①改善活動概論、②生産活動の基礎知識、③5 S活動の進め方、④改善活動の基礎知識を、女性ならではの事例など用いて講義した。グループ演習では、不具合や改善の見える化の役割を担う、自



主保全活動には欠かせない「エフ付け」について、実際の現場写真に付箋を貼って体験し学んだ。

■5 Sと目で見える管理実践セミナー

12月6日(火)、来場11名・オンライン9名、合わせて20名が参加して富山経協・研修室で開催した。

講師の(株)日本能率協会 T P Mコンサルタントの金子裕行氏は、5 Sの目的は、問題だと感じ、整理・整頓を行い、状態を維持する習慣を身につけた「人づくり・企業体

質づくり」であるとした上で、5 Sを定着させるポイントとして、現場の状態が正常か異常かを目で見てすぐに分かり、必要な手がすぐに打てる状態にする「目で見える管理」が重要であると説明。演習では、実際の現場の写真を活用し、講義で学んだ5 Sの着眼点から現場写真の問題点を検討し、改善ポ



イントの発表を通じて5 S活動の進め方について理解を深めた。

会員の動き

(50音順) (敬称略)

■代表者の変更(窓口代表者)

日本ソフテック株式会社

代表取締役社長 丸山 祐市 (前:窪田育夫)

富士機設工業株式会社

代表取締役社長 石原 雅彦 (前:木原清志)

■役職位の変更(窓口代表者)

富士フィルム富山化学株式会社

取締役常務執行役員 生産統括本部長 兼 富山第一工場長

三善 隆広 (前:取締役常務執行役員 富山第一工場長)

叙勲 ご受章おめでとうございます

旭日  
小綏章

富山県中小企業団体中央会  
会長 高田 順一 氏

旭日  
双光章

M & P 研究所  
代表 棚邊 一雄 氏

特定(産業別)最低賃金の改正

富山県の区域に設定している特定(産業別)最低賃金が下表のとおり順次改正発効となります。

| 最低賃金の件名  | 時間額                                | 効力発生日                |
|--|------------------------------------|----------------------|
| 富山県玉軸受・ころ軸受、他に分類されないはん用機械・装置、トラクタ、金属工作機械、機械工具、ロボット、自動車・同附属品製造業最低賃金 | 現行 934 円→<br><b>960 円</b> (+ 26 円) | 2022年12月25日(日)<br>から |
| 富山県電子部品・デバイス・電子回路、電気機械器具、情報通信機械器具製造業最低賃金                           | 現行 879 円→<br><b>910 円</b> (+ 31 円) | 2022年12月22日(木)<br>から |
| 富山県百貨店、総合スーパー最低賃金  | 現行 890 円→<br><b>915 円</b> (+ 25 円) | 2022年12月28日(水)<br>から |

【参考】富山県(地域別)最低賃金 時間額 908 円 (2022年10月1日発効)





表紙  
ニシキギ

(富山県中央植物園 園長 中田政司)

### 世界三大紅葉樹のひとつ

ニシキギは漢字では「錦木」と書きます。紅葉の美しいことを錦にたとえたもので、ツツジ科のスズランノキ、ヌマミズキ科のニッサボクと並んで世界三大紅葉樹のひとつに数えられています。ちなみに、スズランノキもニッサボクも北米の植物で、あまり馴染みのない植物ですが、ニシキギは北海道から九州にかけての日本と、朝鮮半島、中国東北部、サハリンなど東アジアに分布しています。

ニシキギのもう一つの大きな特徴は、若い枝にコルク質の翼がつくことで、著しいものでは、高さ（幅）が5cmに達することもあるそうです。この翼をカミソリの刃に見立てて、地方によってはカミソリノキ、カミソリギなどと呼ばれることもあります。また、翼の出ない品種もあつ

て、コマユミと呼ばれます。

### 鮮やかな種子は有毒

秋になると熟した果実が割れ、中から1~2個の、鮮やかな赤橙色の仮種皮に覆われた丸い種子が露出します（写真）。この種子はシジュウカラやエナガなどの小鳥に食べられますが、鳥は仮種皮だけ消化して種子を糞とともに排出するので、鳥による散布が行われます。

この種子は人間にとっては有毒で、誤食すると腹痛、嘔吐、下痢、運動麻痺などの症状が現れます。昔は、実を砕いて油で練ったものを頭髮に塗ってアタマジラミの駆除に用いていたといわれ、シラミコロシという名前もついています。

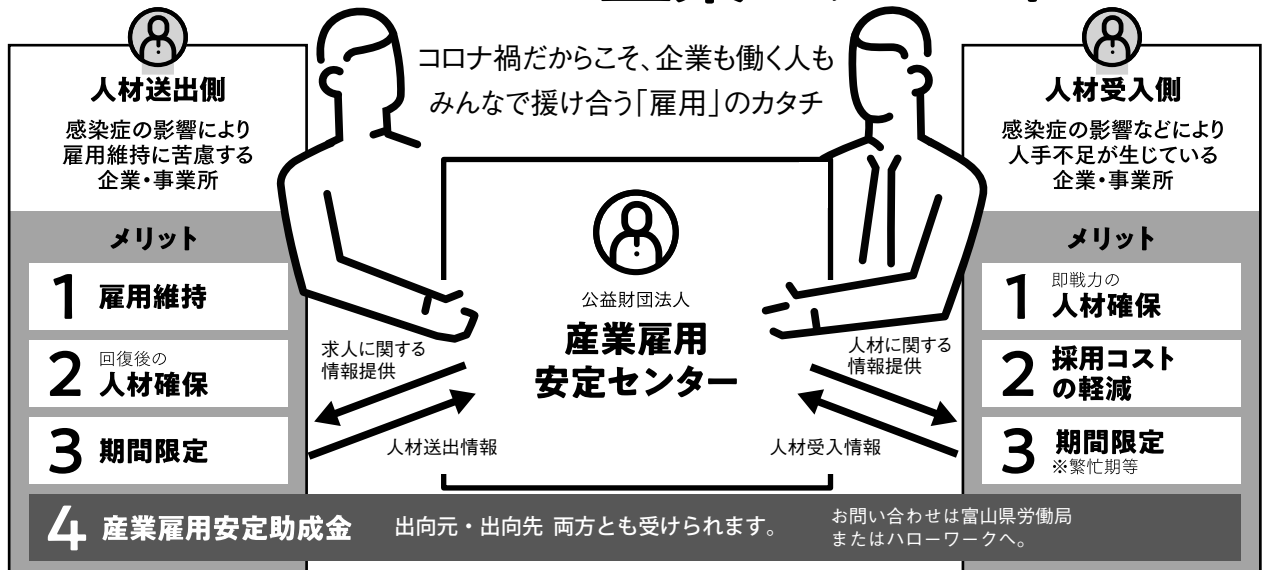


ニシキギの翼と種子 ▶

# 雇用シェアで 従業員を守る 企業をサポート

在籍型出向制度

無料



公益財団法人  
**産業雇用安定センター 富山事務所**  
〒930-0857 富山市奥田新町8-1 ボルファートとやま10階  
TEL 076-442-6900 FAX 076-439-2860

ご利用時間／9:00~17:00  
(土・日・祝日は休み)



センターの  
ホームページ

2023年

# 新春互礼会



(ご案内済み)

2023年 1月4日(水) 16:00~17:00  
(受付: 15:30~)

場 所: ANAクラウンプラザホテル富山 3階 鳳  
富山市大手町2-3 電話 (076)495-1111

新田県知事ならびに行政の責任者の皆様をお招きして、  
県内経済5団体合同で開催します。

新型コロナウイルス感染症の再拡大を防ぐため、昨年同様、食事は提供せず、  
開催時間を短縮して開催いたします。

- ・(一社)富山県経営者協会 ・富山県商工会議所連合会
- ・富山県商工会連合会 ・富山経済同友会
- ・富山県中小企業団体中央会

\*\*\*\*\*

# 幹事会

\*\*\*\*\*

(別途ご案内申し上げます)

2023年 3月3日(金)  
16:30~

場 所: 富山電気ビル 4階 光の間  
富山市桜橋通り3-1 電話 (076)432-4111

<内容>

- ・2022年度事業報告
- ・2022年度収支見通
- ・2023年度暫定予算

## 事業予定

2022年12月16日~2023年2月15日

詳しくはホームページ(<https://www.toyama-keikyo.jp/>)  
「講座・セミナー案内」をご覧ください。

OL=オンライン併用開催

|         | 開催日                               | 時間          | 事業名                             | 委員会名    | 場 所                |
|---------|-----------------------------------|-------------|---------------------------------|---------|--------------------|
| 会員交流    | 1月4日(水)                           | 16:00~17:00 | 新春互礼会 <small>上記「お知らせ」参照</small> |         | ANAクラウンプラザホテル富山    |
| 講座・セミナー | 12月21日(水)                         | 9:00~17:00  | 次世代経営者育成セミナー<br>~ひと・しごと未来創生塾~   | 経営企画・IT | 富山経協・研修室           |
|         | 1月17日(火)                          | 9:30~16:30  | C S 顧客価値実現セミナー                  | 教 育     | 富山経協・研修室 <b>OL</b> |
|         | 1月18日(木)・27日(金)<br>2月2日(木)・10日(金) | 9:30~16:30  | 品質管理入門講座<実践編>                   | 品質管理    | 富山経協・研修室           |
|         | 1月24日(火)                          | 9:30~16:30  | 企業倫理研修                          | 教 育     | 富山経協・研修室           |
|         | 2月3日(金)・9日(木)                     | 13:30~16:30 | [企業間交流]若手社員活性化セミナー              |         | 富山経協・研修室           |
|         | 2月14日(火)・15日(水)                   | 9:30~16:30  | 職場リーダー実践コース                     | 教 育     | 富山経協・研修室           |

「富山経協」vol.871

2022年(令和4年)12月号  
2022年12月15日発行(隔月発行)

一般社団法人 富山県経営者協会

〒930-0856 富山市牛島新町5番5号(タワー111ビル 1階)  
TEL (076) 441-9588 FAX (076) 441-9952  
ホームページ <https://www.toyama-keikyo.jp/>  
Eメール [info@toyama-keikyo.jp](mailto:info@toyama-keikyo.jp)